

三齒科大学女性協議会主催

第3回女性歯科医師の集い

報告書

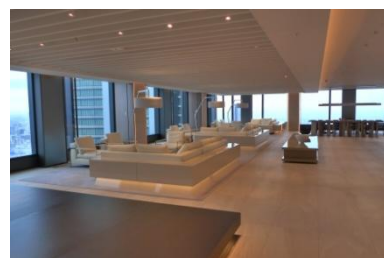
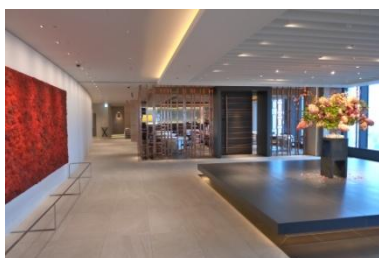


愛知学院大学歯学部同窓会女性企画委員会

日時：平成28年11月27日（日） 10:30～15:30

会場：東海東京証券オルクドール・サロン

名古屋ビルディング 33階



【巻頭言】

2014年11月、全国歯科大・歯学部同窓会・校友会懇談会（全歯懇）において、「女性会員がより輝くために」というテーマで開催され、愛知学院大学歯学部同窓会・朝日大学歯学部同窓会・松本歯科大学校友会の女性役員が、各同窓会での女性会員活動について報告した事を契機に、2015年1月、「第1回親睦交流会」が17名（愛知学院大学7名、朝日大学、松本歯科大学各5名）にて開催されました。その中で、交流会継続の決議がなされ、同年11月に「第2回女性会員交流会」が開催され、86名の参加者が集い成功裏に終わることが出来ました。その後、三歯科大学同窓・校友会において「三歯科大学女性協議会」の発足が正式に認められ、各校3名（愛知学院大学は4名）の計10名で2016年1月10日第1回が開催されました。今回は企画から準備まで計6回の協議を重ね、「女性会員交流会」の名称を変更し、この度「第3回女性歯科医師の集い」として開催する運びとなりました。各校で参加者を募集しましたところ、（愛知学院大学では、ハガキ、ホームページ、口コミ等）当日は、総勢102名の女性歯科医師（内2名は歯学部生）が参加してくださいました。回を重ねる毎に参加者が増加し、本来の目的でありますお互いの顔を知り、そして親睦を深めつつ、研修するという目標に一步ずつ歩んでいっているのではないかと実感しております。

各大学に目を移しますと、愛知学院大学歯学部では、2008年から女性企画委員会が発足し、活動を開始しました。松本歯科大学では、昨年に女性会員のための「桔梗会」発足、朝日大学歯学部では同窓会本部活動はないものの、以前からいくつかの支部で女性会員の会が開催されております。三歯科大学女性協議会を通じて各大学での活動もますます精力的になっていくことと期待しております。

この会の開催に際しまして、ご協力いただきました関係各位に感謝しつつ、今後も三校の顔の見える関係を構築する事によって、東海地方のみならず全国の女性歯科医師の和が広がっていく事を切に願い、ここに報告書を作成致しました。

平成28年12月吉日
（森岡貴子）

【参加者】

女性歯科医師 102 名（内 2 名 歯学部生）

愛知学院大学 51 名

朝日大学 26 名

松本歯科大学 15 名

他大学 10 名



橋本裕子 代表



愛知学院大学歯学部同窓会

池山正仁 会長



東京都女性歯科医師の会

竹内千恵 会長

【スケジュール】

10:30～ 挨拶、報告

11:00～12:25 講演

12:15～ 昼食

13:30～14:30 テーマ別座談会

14:30～15:00 発表

15:00～15:30 お楽しみ抽選会

15:30～ 閉会



三歯科大学女性協議会 役員

【講演】

「やさしいお金の話(経済動向とマネープランについて)」

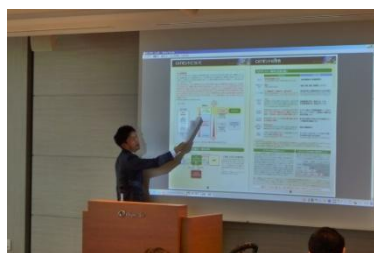
安藤 正道氏

東海東京証券株式会社 オルクドールメディカル部長

石橋 伸美氏

東海東京ウェルネス・コンサルティング コンサルティング部 東京Gグループリーダー

女性の生き方が多様化している中で、ゆとりある老後の生活を送るために、自分で準備しなければいけないお金はどのくらいなのか、セカンドライフの備えが必要な理由や対策について、そしてイギリスのEU離脱、トランプ氏のアメリカ大統領就任等、世界情勢が大きく変動している現状をふまえ、遺産分割から相続対策、年金などの最適な運用方法について、金融のプロでいらっしゃるお二人の講師をお招きしてわかりやすくお話しして頂きました。



講演1 安藤正道氏



聴講風景



講演2 石橋伸美氏



子連れ参加



美濃吉のお弁当



おやつはケーニヒスクローネの
カップケーキ



お楽しみ抽選会 当選者の記念撮影

【テーマ別座談会】

～テーマ A 臨床 1～



座長 渥美信子（愛院大 21 回生）

書記 中村美保（愛院大 22 回生）

まとめ

スタイルはさまざまであるが、全員、歯科医師の仕事に携わっていた。現在、妊娠4か月で実家の歯科医院で勤務している20代女性歯科医師の「仕事と子育ての両立できるライフスタイル」の準備に役立つ内容にしたいと思った。

ご主人と一緒にフルタイムで仕事をしている50代の先生は子育ても終わり、現在は少し余裕も出てきて勉強会にも参加している。そんなに働くつもりはなかったが、第1子は義母にみてもらい、第2子の時は産後2週間で仕事をしていた。子育てを優先できなかったことに後悔もあり、ご主人としっかり話し合い、育て方や教育について方針を決めるようアドバイス。

30代の先生は開設者。開業してから出産。3週で仕事に復帰した。現在1歳9か月、もともと開業志望だったので仕事を軸に子育てを考えている。診療所と住まい、保育園も近く、自分のライフサイクルにはとても都合がいい。2ヶ月で保育園に預け、フルタイムで仕事をしている。勉強会に行けないジレンマはあるが、今は休みの日はできるだけお子さんと過ごすよう努めている（本日、子連れ参加）。

現在、2年生と年中の子供がいる30代の先生。7年ブランクを経て復職した。始めはとても怖かったが、子供の成長とともに勤務時間も増やそうと考えている。最近は病児保育といった病院での預かりのシステムもあり、働くお母さんには朗報である。

それぞれが仕事に対し、前向きに考えていることがわかり、歯科医師としてのキャリアがそうさせているのだと感じた。出産・子育てを乗り切ることで仕事に対する意識も確固たるものになる。これからの若手女性歯科医師にエールを送りたい。

～テーマ A 臨床 2～



座長 佐久間恵子（愛院大 22 回生）

書記 佐野乃里江（愛院大 31 回生）

まとめ

日常臨床について困っていることなどをテーマに20歳代から60歳代の先生方で活発な意見交換が行われました。

参加の先生方はご自身での開業、ご主人との開業、大学勤務、勤務医の方で、みなさん、元気に男勝りに歯科医師として働いてみえる方々です。

主に以下の内容についてのディスカッションがなされました。

予約時間を守っていただけない患者さまへの対応においては、予約の1時間ほど前に電話にて連絡をする。

遅れてみえた方には遅れないようお願いをする。

治らないよなーと思う歯根破折歯、根面カリエスなどの治療方法としては、その方のことを考え

てどの方法が最善かを考え選択をする。

嘔吐反射が強くなってしまった小児への対応においては、大学小児歯科勤務の先生、諸先輩先生方から、しっかりとお話をし、ぶれない治療をすることが有効であるとアドバイスがあった。

点数の算定方法についても少しアドバイスがあった。

他に女性ならではの集患方法は何かないか、訪問診療のすすめ方や人材育成、親子継承のタイミングなどがありました。

はじめは意見も遠慮しがちでしたが、すぐに和んだ雰囲気となり上下の関係もなくいろいろな意見が交わされました。

～テーマ A 臨床 3～



座長 中原弘美（朝日大 6 回生）

書記 長井真理子（朝日大 9 回生）

まとめ

研修医 2 名、勤務医 2 名、開業医 3 名、近年閉院された先生 1 名で、歯科医師としてどの様に仕事に取り組んでいくのが良いかを話し合いました。

研修医は専門に行くか GP として広く学ぶかの選択に迷い、勤務医は結婚・出産等に伴うブランクについて考え、開業医は今後の医院の在り方や改装の必要性、また雇用する若い先生に望む事等についてお考えです。閉院された先生は今後歯科医師として社会との関わり方についてお考えでした。

歯科医師として様々な形や考えはありますが下記に皆様のご意見をまとめてみました。

- ・ 認定医を目指すのは大事なこと
- ・ 卒後 5～6 年しっかり働けば、諸事情によりブランクができたとしても復帰可能
- ・ 様々な形での仕事の継続の必要性
- ・ 一人で何でもやるのは難しい。色々な形で周囲と関りを持ち、人脈を広げ、相談できる人を作るのが大事
- ・ 色々な情報を取り込むために、常にアンテナを張っておく必要がある

多様な年齢の女性歯科医師が集い、意見を交換できる場は少ないので、今回は貴重な時を過ごせたと思います。

～テーマ A 臨床 4～



座長 近藤万知（朝日大 9 回生）

書記 山岡真弓（朝日大 8 回生）

まとめ

最初に診療形態・ライフスタイルなどと共に、自己紹介を行った。

- ・ 離島で過疎化が心配であるが、患者を夫婦で分担して行っている。
- ・ 義父と共に診療を行い、自分は訪問診療で摂食・嚥下に力を入れている。
- ・ 研修医だが、スタッフとの意思疎通が難しい。

・叔父の所を継承予定で臨床面でもいろいろ学びたい。

など、自分自身の現状の立場からの発言があった。

次に診療時の悩みの中で、女性として小児の治療をしているが、乳歯の根治に行き詰っている、スケーリング、SRP時にHysを引き起こすケースの対応などの疑問に、各々が自分の臨床経験から意見交換をした。

また、研修医から最近の根治時の薬液についての話があり、まさにこれも日進月歩だとみんなで感じる場面もあった。

さらに医科歯科連携について自院でどんな取り組みをしているか？訪問診療時の難しさ等の発言もあった。

盛り上がった中、最後には、「歯科医師になってよかった」とみんなが意気投合して散会となった。

～テーマA 臨床5～



座長 吉田尚子（松歯大 4 回生）

書記 杉本有加（松歯大 36 回生）

まとめ

20代～60代の各世代における臨床の取り組み方、展望、改善策などについて幅広い分野でディスカッションできました。

- ・老人施設の訪問診療では必要な知識を介護士、家族に伝え日常の口腔ケアの重要性を理解してもらう。（特に嚥下運動、ドライマウスにおける対応など）
- ・外来禁煙指導、周術期管理などの口腔ケアの指導にも積極的に取り組んでいる。
- ・ホワイトニングやサプリメントなどの情報交換。
- ・予防重視の治療をチーム医療として携わるには…。
- ・日々忙しさに追われながらこなしている診療への限界感など。

歯科医師という仕事は女性に適した職業。良い面をどんどん活かしましょう。医療は常に進歩しています。いつ、どこで自立しても良い様に日頃から技術を磨き、継続していくことが大事！などと先輩先生から若い先生方へ向けてのエールで締めくくりました。

～テーマB 医院経営1～



座長 西尾佐和子（愛院大 21 回生）

書記 西村温子（愛院大 24 回生）

まとめ

どのようなことで困っているか

1. スタッフ間の問題に自分はどのようなスタンスで関わるか難しい。
2. スタッフ間で給与明細を見せ合い、衛生士に対して助手に不満があること。他医院の雇用条件を調べて突きつけてくること。

3. スタッフを勉強会に行かせたいが、未婚のスタッフは都合をつけて出席してくれるが、家庭のあるスタッフはそれぞれの事情でなかなか都合をつけてくれない。
4. 衛生士を募集しても見つからない。衛生士どころか歯科助手も見つからない。
5. 人手不足でスタッフがやめるのではないかと指導したくてもできない。年上のスタッフに指導しにくい。
6. 開業 20 年ずっと同じ事の繰り返しで診療のモチベーションが上がらない。
7. 夫婦で開業していてスタンスが難しい。

疑問

- ・ 抜歯などで同意書を取る時代が来るのか。

困っている事の答え・意見

1. スタッフの中にチーフを作りスタッフ間の問題は任せる。自分は介入しない。
2. 衛生士は国家資格だということを説明する。仕事のすみわけをする。
3. 就業規則から変えて頑張っている人が手当を貰える様にした。
4. 定年を 60 歳から 65 歳にした。雇用保険の育休を利用する。厚生年金に入ったり、給与面で考える。募集はハローワークだけでなくネットなども利用する。
衛生士の離職率が高い。結局はお金の面でのことが多い。衛生士志望動機を満たすようなやりがいのある職場にするのがいいのではないか。
5. 食事会などで親睦を深め何でも言い合える仲になる。労働に対して敬意と感謝を伝える。
6. 今までの 20 年とこれからの 20 年は違いうだろうから、業者や地方自治体などがどこに力を入れていくかという情報を得て方向性を決めてみたらどうか。コンサートや旅行などでリフレッシュをはかってみたらどうか。
7. 患者を分ける。仕事のすみわけをする。

疑問についての答え

- ・ そういう時代がいつ来ても自分を守れるように、しっかりムンテラしてカルテに記録を残すことが大事ではないか。

～テーマ B 医院経営 2～



座長 井上泰子（愛院大 24 回生）

書記 山根典子（愛院大 29 回生）

まとめ

参加者は、開業前の若い先生方、子育てにもひと段落し、今後は子供にお金のかかる世代の先生方、後継者（息子さん）が主で働いてもらっている先生の 3 パターンで話し合いは始まった。

テーマは医院経営、実なる悩みは、収入アップに繋がるようにしていくには・・・と深刻な問題がすぐに上がった。日々、月のデータを取り患者数・点数・収入額をグラフにして表す。毎年の傾向がわかる。人数が減る月がわかってくるのでその月にはイベントを行ったりする。など、コメントをいただいた。

自費率アップは、なかなか難しくなっている。国に乗っかって、訪問診療も考えては。自費診療での、エステ感覚な歯科はどうなのか。リコールとして、PMT C・スケーリング・歯肉マッサージ・ハンドマッサージ等どこまで自費として行えるのか。地域性が問われるか。など、意見が挙が

った。

訪問診療を週の半分行っている先生に、様子を伺える事ができた。女性には訪問診療が合っているとコメントも頂けた。

経営も昔のようにいい時代では無いので、1人たりとも患者さんを逃す事の無いよう、患者さんに気持ちよく通っていただけるよう、女性は笑顔で、愛想よく接していくことが大切であると締めくくった。

開業前の先生方は、勉強になったと熱心に話を聞き入っていた。

～テーマB 医院経営3～



座長 谷 香代子（朝日大 23 回生）

書記 加藤美紀子（朝日大 16 回生）

まとめ

最初に医院運営について発言してもらった所、多く出たのは①医院継承②医院経営③従業員との関係だった。

①は「建て替えてから親の立場が変化し親もストレスがあるみたいだ。」「親の年齢や考え方により継承時期は変化するので親の立場も理解し移行していくしかない。」「既存の患者様をスムーズに移行できるように担当制でなくしている。」「古くからいるスタッフが上手く医院を回している。」との意見があった。「継承時の状態を継続していけるか求人面も不安」の声には、「全て同じ状態とは思わず臨機応変に変化していく事も大事」との意見があった。

②は「自費にウエイトを置かないようにして気持ちを軽くなった。」「オーバーワークになり閉院も考えたが、代診を探し頼ったら成功した。」等の意見があった。

③では「スタッフに言いたい事が言えずストレス」と発言があり「スタッフとマタハラや鬱など思いもよらないトラブルもある。」「試用期間で把握につとめる」「何か問題が生じたら記載して残す。」「自ら何でも伝えられるような環境を作るように努める。」「院長、衛生士、助手、役割分担し互いの立場を尊重しあう事が、医院運営を行うのに重要だ。」という意見もあった。

（前回の座談会がきっかけで開院予定の先生もみえた。状況は皆様々で明確な答えは出なかったが多様な意見が出たことにより参加者の一助になれば良いと感じた。）

～テーマC 子育て1～



座長 森岡貴子（愛院大 30 回生）

書記 兵藤文美（愛院大 29 回生）

まとめ

20代から40代7名で主に育児について話し合った。

全員の自己紹介とともに、今悩んでいることを一人ずつ言っていたいた。

6年生の学生の方の参加もあり、これから将来結婚し、子供ができたかどうかや仕事と両立し

ていくか、産休中の先生は仕事復帰の不安も語ってみえた。

子育て中の先生が4名いたので、今どうやって両立しやっているか、現在の様子を話していただいた。子供がいて仕事をしていくには家族の助けが重要で、それでも困ったときに相談できる歯科医の友人や先輩などを作っておく。そのためにもセミナーや懇親会などに参加し、交流を広げ情報を得ることも有意義ではないかと意見が出た。

人によって色々な立場があるが、ワークライフバランスは自分自身で決め、ベビーシッターなど専門家の手を借りることも必要であると助言がなされた。

また介護の話もあり、子育てと介護が同時に来ってしまうこともあるので、無理をせず地域や同窓の先生に相談するとよいアドバイスがしていただけるのではと意見が出た。

子育てなどのストレス解消法、リフレッシュ方は?と聞くと、ヨガなど体を動かす、ドラマを撮りためたものを見る、子供を預けてランチに行く、友人とのおしゃべり、などが出て明るく和気あいあいとした雰囲気の中終了した。

～テーマC 子育て2～



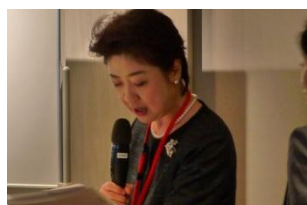
座長 長岡 香（松歯大 6 回生）

書記 萩原佳江（松歯大 28 回生）

まとめ

- ①20 代の先生方からは、結婚することによって担うリスク（勤務地が変わったら、スキルアップの時期が出産と重なったら、子育てしながら仕事が続けられるかなど）の不安の声が具体的に挙がりました。
- ②子育て真っ最中の先生方からは、今の自分の環境に応じた職場の確保、ベビーシッターや家事などのサポート体制、復職時の研修システムなどがあればという希望がありました。
- ③子育てが終わった先生方は、それぞれ全く違う苦労話をされ、どこかで必ず重なる時期はある、それを恐れずどんどん結婚も子育ても仕事もしてほしいと意見があり、そのために子育てサポートシステムや研修システムを医師会や母校に働きかけて具体的な形にしていきたい、という結論になりました。
- ④入学者の 50%が女医の昨今、『専業主夫』の形も全くあります。折角女性であり歯科医師であるのだから、したたかにしなやかに、子育ても仕事も頑張ろう！と締めくくりました。

（座談会まとめ 渥美信子）

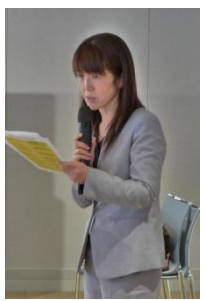


座談会発表のまとめ

役 守安攝子先生

と

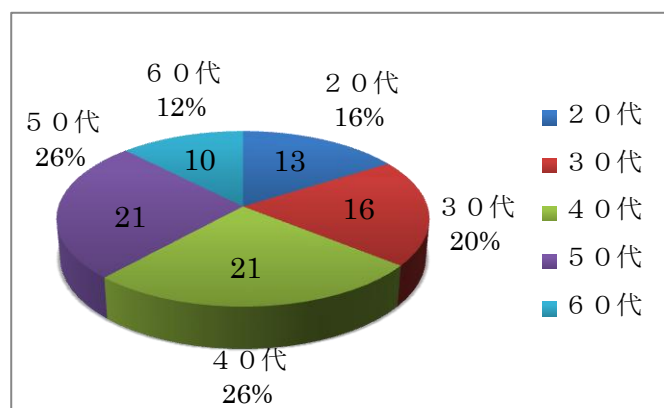
10 人の発表者の先生方



【アンケート集計結果】

去る11月27日(日)に開催された「第3回女性歯科医師の集い」の折、とらせていただきましたアンケート結果についての集計ができましたので、報告します。参加者102名中81名(79.4%)の方が回答をしてくださいました。

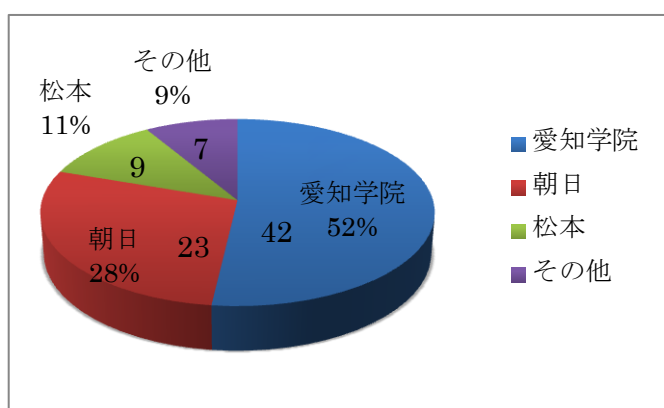
1. 参加者の年齢



幅広い年齢層の先生方にご参加いただき、大変ありがたかったと感謝しています。若い先生方からベテランまで、女性歯科医師としての「何かをやらなければ。」という気持ちの現れを感じることができ、同時に状況さえ許せば、「情報収集に対する食欲さ」と「関心の高さ」は、男性歯科医師に決して引けを取らないかそれ以上ではと感じることができます。また、今回は学生さんにもご参加いただきました。学生さんや20歳代の先生方には、

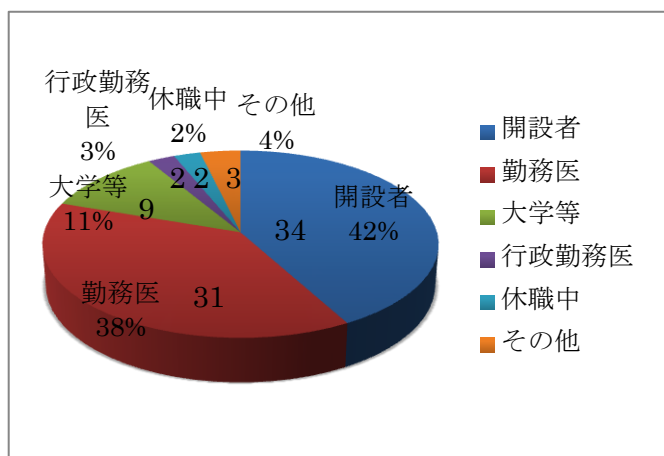
今回の経験を今後に生かしていただきたいのと、この会の今後のあり方にも関心を持ち続けてくださることを期待します。

2. 出身大学



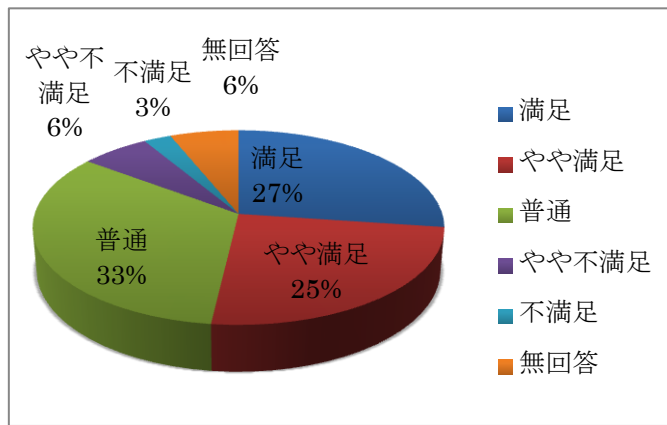
やはり地元ということで愛知学院大学出身者が半数以上を占め、朝日大学、松本歯科大学の順となっています。その他の学校出身者も1割近くご参加いただきましたが、さらなる今後の増加を期待したいと思います。

3. 職場での立場



42%が開設者で、56%が何らかの形で勤務してみえます。2%が休職中でありました。おかれている状況にこれだけの違いがあるとテーマの選択にも一工夫が必要では感じますが、診療所開設者でも勤務医でも、女性歯科医師としての興味ある共通したテーマは沢山あるはずです。また、逆に「立場が違うからこそ幅広い情報交換も可能になる。」というような前向きな捉え方で、進めていけたらと考えます。

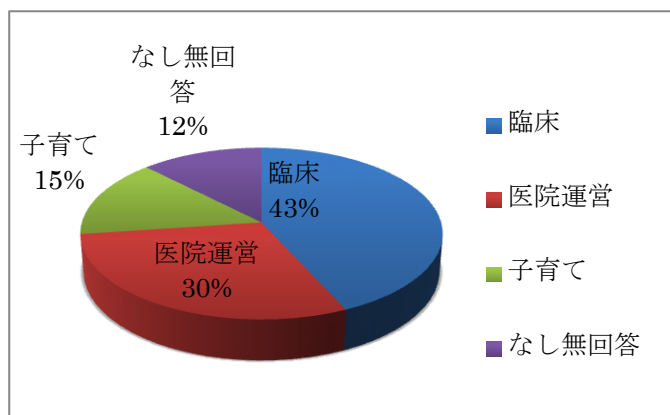
4. 講演内容



約半数がほぼ満足していますが、逆に4割以上が「普通」から「不満足」となっています。いただいたコメント内容と円グラフ結果にかなりのギャップを感じました。コメントに関しては21名の方からいただき、その内17名の方から、「歯科に則した内容に」「歯科医師の現状を加味した話を」「医療にかかわる経済の話を」「女性歯科医にマッチする内容を」等々の厳しいご意見を頂戴しました。反面「年金に関して理解が深まった。」

という4名の好意的なご意見もありました。今後、コメントから読み取れる先生方のお気持ちを議論して、更に深く検討を重ねてみたいと考えます。

5. テーマ別座談会

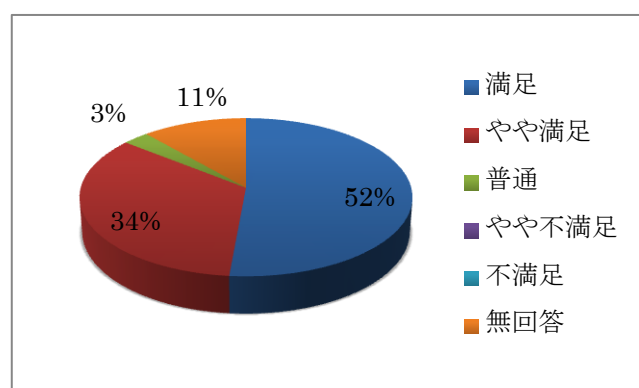


アンケート回答者のテーマ別座談会参加状況です。座談会の参加人数は、臨床45名、院経営31名、子育て18名で計94名でした。回答者としても積極的ご回答いただいた方は「臨床」に関する関心が高く、ご自身の歯科医師という職業の持つ重みを充分認識してみえる証と考えられます。また、歯科診療所の開設者というお立場の方が34名だったためか、「医院経営」に関する関心もある程度はあったものの、「子育て」に関しては、実際

の参加者が18名で、アンケート回答者は15%、12名と消極性を感じました。コメントは25名の先生方から頂戴しました。その内21名の先生方から「同じような悩みを抱えている、共有できてよかった。」「様々な世代の方のお話が聞けて参考になった」「楽しかった」「よかった」というご意見を頂けました。それ以外の4名の先生方からも「時間が短い。」「もっと多くの人に意見を言わせるべき」「名札を見易く」という運営上のご指摘で、座談会自体に関する否定的なものではありませんでした。

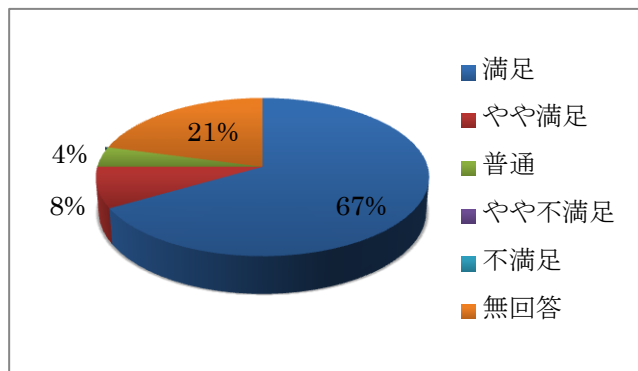
テーマ別

A. 臨床



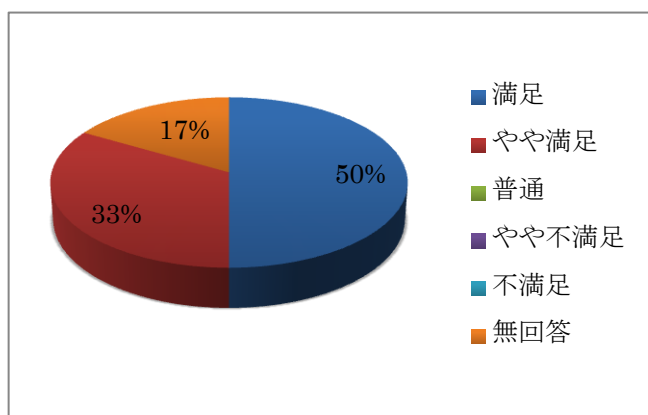
「満足」「やや満足」「普通」の方が9割近くを占め肯定的な見方をしてくださいました。女性歯科医師という職業に対して自負を持ち、更なるスキルアップを目指したいという姿勢に応えるべく、今後、更なる充実に取り組んでいくべきと考えます。

B. 医院運営



「満足」「やや満足」「普通」の方も合わせるとほぼ8割の方が、肯定的な見方でした。「無回答」の方が約2割みえたのが気になりますが、「医院経営」のどの部分に関するお話が聞きたいのか、テーマの選択に関しては、事前に十分な協議をすべきと感じます。

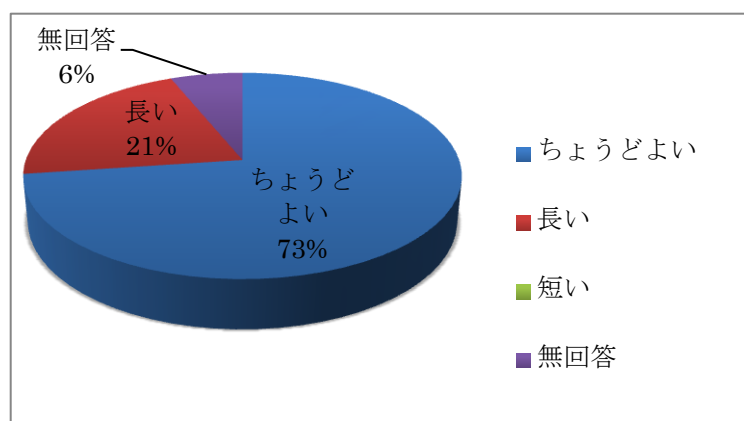
C. 子育て



女性特有のというか、とにかく女性に責任を押しつけられがちな「子育て」に関しても、8割以上が「満足」「やや満足」と感じ、参加者にとって意義深い内容だったと推察されます。最近の若い子育て世代の孤立化傾向は、女性歯科医師として例外ではなく、ベテラン世代からの経験を基にしたアドバイスは、子育て中の女性歯科医師にとって、肩にのしかかった重みを、「フッ」と軽くできるようなありがたいものではないだろうかと思います。女性歯科医師の

共通テーマとして、外せない内容と考えます。

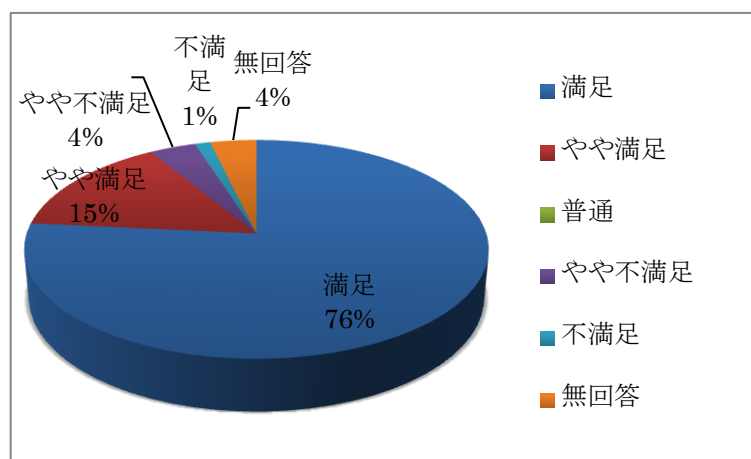
6. 開催時間について



「ちょうどよい」が7割以上でした。「長い」とお感じになった先生も2割以上おみえになります。午前中の「講演会」、お弁当をはさんで午後からの「座談会」という2部構成のスタイルはかなり充実していますが、一日がかりという印象がぬぐえません。コメントには、「一日取られるのが辛い。」「午前中にしていただけないか。」「木曜日だとありがたい。」等々のご意見がありました。

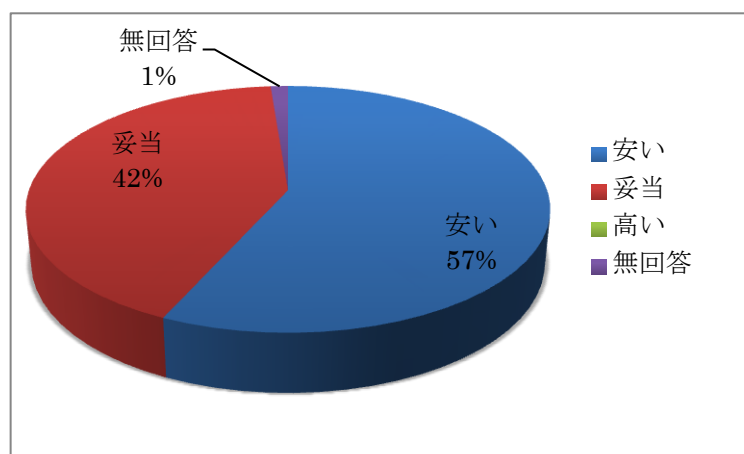
た。帰りが遅くならないように、且つ中身の濃い充実した時間を過ごしていただけるように、今後さらなる検討をしていきたいと思っています。

7. 会場について



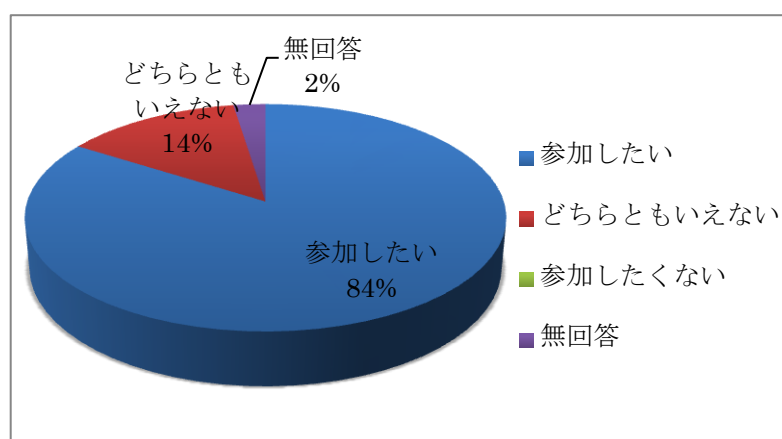
9割以上の参加者にご満足いただきました。名駅エリアという交通の利便性、豪華でおしゃれな雰囲気、という様々な要素からの結果と思われます。ただ、厳し過ぎるセキュリティー、会場をお借りしているが故、収容人数や内容などに縛りがあるようですと会の本質から外れてしまう危惧もあります。今後の会場設定は検討項目になります。

8. 会費について



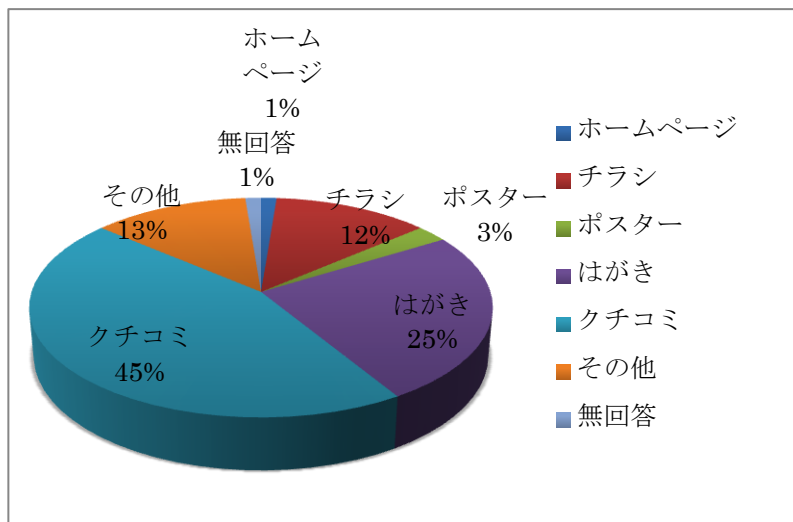
99%の参加者が「安い」「妥当」と回答されました。コメントにも、「安く感じる。」「リーズナブル」というご意見。極めて高い満足度と言えるかと思います。しかし一方では、「安すぎないか心配。」というご意見もありました。現状を維持できればそれでいいのかもしれませんが、今後、会の継続を考えていくなれば、運営を念頭に入れた会費の扱いについて検討していく必要があります。

9. 今後も女性歯科医師の集いに参加したいと思いますか？



8割以上が今後の参加を希望しています。コメントには、「日時が合えば、参加したい。」「講演内容が合わなかった。」とあるように、「どちらともいえない」と回答された方も、内容によっては「参加したい」に追加されると予測されます。継続しての開催に対しての期待感を感じます。

10. 今回のイベントをどのようにして知りましたか？



「はがき」「クチコミ」を合わせて7割となっています。中でも圧倒的に「クチコミ」が多いのは、やはりこの種の会合は人間関係がベースになっていると痛感させられました。「ホームページ」が効果的ではなかったようなので、今後の活用を踏まえたホームページの作成の充実を図りたいと思います。

11. 「女性歯科医師の集い」で取り上げてほしい企画がありますか？

24名の先生方から、多くのご意見をいただきました。内容的に複数あるご意見を以下に記載させていただきます。

- ✧ 歯科医院過剰時代を生きぬく為に女性歯科医師として出来ることは？すべきことは？！なすべきことは？
- ✧ それぞれの地区での女性歯科医師活動状態を提示していただき、女性が輝ける場づくりの範としたい
- ✧ 歯科医師として長く働けるような健康づくりについて
- ✧ 家事、育児、介護、診療の両立と事前に準備できる事
- ✧ 講師の選択として、活躍してみえる女性歯科医師にしてほしい
- ✧ 女性の品格、言葉遣い、応対についてのセミナーをしてほしい
- ✧ メイキャップセミナー

12. その他ご意見があればお書きください。

21名の方がご意見を出してくださいました。内容的には主催者側への「ねぎらいの言葉」「感謝の言葉」を9名の方からいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、運営上の問題点として、「託児室があったら」「出身大学が間違っていた。」「希望した内容と異なるテーマに回された。」「会場への入退場に難あり」等々のご指摘がありました。反省すべきは反省して、次回からの糧にしたいと考えております。

13. 総 括

今回で3回目という女性歯科医師の会でしたが、幅広い年齢層、様々な立場、それに伴う様々な経験をされた先生方が一堂に会して、一つのテーマについてお互いに意見を出して、お互いに高めあうという、他では得られない様な非常に貴重な時間を過ごすことができたことを、改めてご参加いただいた先生方に感謝申し上げます。

出身大学の垣根を越えて、同じ女性歯科医師であるが故の「戸惑い」「不安」「焦燥」「悩み」

を分かち合い、それらに対する「解釈の仕方」「解決法」を議論し、たとえ解決に至らなくても、その結果得られる「満足感」「共有感」を感じることができたのではないのでしょうか。

今後の課題として、講演内容とテーマ別座談会が少しでも関連づけられた内容になると、参加された先生方がより高い満足感を感じることができたのではと感じております。

最後に、至らぬ点多々あったことと思います。今後共、変わらぬ努力をしていくとお約束しまして、お許しをいただきたいと思います。

ありがとうございました。

(集計 佐久間恵子 文責 中村美保)

【スタッフ】

・愛知学院大学歯学部同窓会

(女性企画委員会) 中村・佐久間・森岡・森・祖父江・渥美・西尾
井上・西村・今泉・山根・兵藤・伊藤・佐野

・朝日大学歯学部同窓会

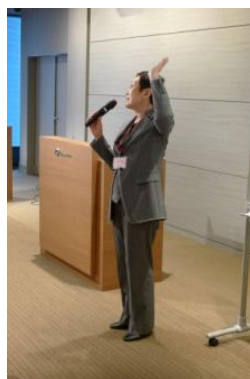
橋本・中原・越智(雅)・越智(葉)・越智(鈴)
谷・近藤・長井・加藤・山岡

・松本歯科大学校友会

伊藤・岡田・守安・古田・杉本



スタッフ集合写真



【エピソード】

東京に張り合うわけではないけれど

最後の締め言葉は森 榮先生

第3回女性歯科医師の集いを無事開催でき、しかも参加者が増えていることに、学院歯学部同窓会役員として、いわば仕掛け人の一人である私は、安堵の胸をなでおろしているところです。

三校の女性歯科医師が初めて集った第1回は、各校から5名ずつで開けられましたが、第3回は参加者が100名を超える会となりました。何より嬉しかったのは、ベビーカーを引いて参加してくださった若い方や子連れの方の参加があったことです。今回、託児はしていませんでしたが、日頃働く母親を見ている所為なのか、どの子どもたちも、会の進行の妨げには全くならず、とても有難い存在でした。勿論、託児は必要と思いますが、普通に子どもと一緒に参加できるということが、皆に伝わったと思います。

女性が活躍する社会づくりが提唱されているものの、まだまだ各自の力を十分に発揮できるまでの受け皿ができているとは言い難いところがあります。同窓会においてもまた然りで、女性の副会長として「何とかしなきゃ」と考えている中で、2010年、友人たちが「東京都女性歯科医師の会」を立ち上げ、研修、親睦、情報交換など、私たちが手本としたい集いを年2回も開催されることに

なりました。この会は、歯科医師会主導ではなく、在京各大学の同窓女性歯科医師の集まりですので、私も愛知学院歯学部同窓会の立場でお邪魔させていただきました。3回参加したうちの2回は「フォーシーズンホテル」で、他の1回は「六本木クラブ」で開催されました。いずれも私たち女性にふさわしい華やかな場所でした。羨ましいのは場所だけでなく、とても多くのスポンサーが付いていることです。歯科関係に加え、デパート、ブティック、不動産など、さすが東京と思わざるを得ないほどの協賛数と金額です。東京は会員の数も多く、スポンサーも付きやすいのは確かです。私たちも会を開くに当たり、ここに出展されていた協賛会社に体当たりして、それなりにスポンサーを増やしてきました。そんな中で、「東京都女性歯科医師の会」会長の竹内千恵先生が心配して、私に色々スポンサーを紹介くださっていますので、有難く甘えさせていただいております。その竹内先生が、「名古屋で100名もの参加があるのはすごい」とねぎらいの言葉をかけてくださっています。東京に張り合うわけではないけれど、参加者数にそれほど差がないのは誇れることです。素晴らしいサロンでの開催も類をみません。

これからも、あまた開催されている研修会とは一味違う、誰もが参加できる女性会員のための集いを模索していただきますよう、また、このような集いがきっかけとなり、歯科医師会や他の集まりでも、女性歯科医師のしっかりとした絆が生まれますよう願っています。

そして、今後とも同窓会ができる「女性を輝かせる活動」を拡げていただきたいと思います。会を企画運営してくださった後輩たちに、心からの感謝と更なる期待を込めて書かせていただきました。

(愛知学院大学歯学部同窓会副会長 森 榮)

【編集後記】

3回目を迎える三校共催の女性歯科医師の集まりは、徐々に知名度を増しています。三校にとどまらず、また京都・大阪・滋賀・長野と遠方から、今回は研修医や学生さんにも来ていただくことができ、102名の参加者と28社の協賛を得、大規模な集まりとなりました。そして三校とも同窓会(校友会)にお認めいただき、全面的バックアップの元での開催は今年度とても大きなことでございました。

愛知学院大学といたしましては、委員会での協議、当日スタッフ、そして反省会と報告書の作成を女性企画委員会として行いました。報告書をまとめていく中で、先生方の悩み、焦り、希望、生き方などが浮き彫りになり、読んでいただくだけでもとても参考になると思いました。そして、女性歯科医師の集いはネットワークづくりの1方法としても有効であると考えていますし、委員会としても今後の活動の方向性において、たいへん参考になりました。

6回生から学生(50回生以上)の広い範囲での参加は、2世代に渡る女性歯科医師の生き方に接することができ、貴重な時間を過ごすことができました。今後も女性歯科医師の集いをより発展させられたらと願っています。

最後になりましたが、同窓会執行部の先生方には多大なご理解の元、ここまでたどり着くことができました。心より感謝申し上げます。

(中村美保)

